

対震災航空宇宙技術調査タスクフォース提言

2011年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、日本航空宇宙学会では対震災航空宇宙技術調査タスクフォースを立ち上げ調査検討を行い、将来起こり得る大規模災害に有効に対処するため、統合された航空宇宙システム及びその非常時の運用体制構築を目指し、下記の提言を行う

- 非常時における航空輸送手段の確保
 - 航空輸送の拠点となる空港の確保と後方支援計画の整備
 - 非常時航空輸送における関係機関の組織を越えた役割分担と規則等の整備
- 非常時における運航安全の確立
 - 非常時にも有効な新運航技術（CARATS）の導入推進（通信・航法・監視・情報管理の技術開発）
 - 非常時の過酷な運用にも耐える運航信頼性の高い強靱な機材の研究開発促進
 - 無人航空機の実利用・運航体制構築のための安全性・信頼性・実運用データ蓄積
- 広域にわたる常続的・即時的な情報の重層的把握の実現
 - 人工衛星（広域・常続的）、有人航空機（詳細・即時）、無人航空機（長時間・常続的）を組み合わせた観測・情報伝達・共有システムの構築
 - 大局的な情報有効活用のための関係機関（防災機関等）を含めた情報共有の枠組みの構築
- 高速・大容量の通信システムの実現
 - 集中する災害救援航空機の運航効率改善：航空機⇄地上（災害対策本部等）間のデータ通信化
 - 超高速衛星通信、高速空地通信、高性能・低コスト機上機器の技術開発と普及、共用周波数帯の確保
- 他の学術技術分野との連携を進めるための他学協会との連携推進
- 航空宇宙分野の高度な安全性・信頼性技術研究と、教育・啓発活動の推進

2012年3月9日

一般社団法人 日本航空宇宙学会

第43期会長 鈴木真二